

国際ビジネス研究学会 第28回全国大会

主催校からのご挨拶

拝啓 世界的な災禍のなかにありますが、皆さまにおかれましては研究、教育、学務、社会貢献と、あらゆる面でご奮闘のことと拝察いたします。

さて、ご案内のとおり、本年は11月6日（土）、7日（日）の両日、全国大会を専修大学にて開催致します。オンライン開催を基本として、一部、会場開催とし、会員のみなさまにお越し戴けないか、検討しているところです。

今回の統一論題のテーマは「グローバルバリューチェーン（GVC）はどこに向かうのか」です。2000年代に、ヒト、モノ、カネ、情報の国境を越えた移転が進展し、高度なバリューチェーンが構築されるようになりました。この「第2のアンバンドリング（R. Baldwin）」を可能にしたのは、運輸通信技術の進展と経済活動の自由化であり、東アジアを中心に新興国の経済発展と世界経済の成長に寄与したといえます。

しかしながら、2010年代に入ると状況が大きく変わりました。経済成長率、FDI、国際貿易の伸びが鈍化したのです。1つには政治要因（日中、中韓、米中の政治経済摩擦）を挙げることができます。各国が経済安全保障をより重視するようになりました。

このほかにも、デジタル化、自動化、3D印刷などの技術革新がGVCにおよぼす影響についても考慮しなければなりません。これらの技術革新によって、GVCがさらに進展するのか、それとも本国回帰や近地生産への移行など、新たな動きが強まるのかについてです。

さらに、地球環境や社会問題解決に向けた取り組みがこれまで以上に求められるなか、GVCはどうあるべきかといった、各国および各国間の政策が国際ビジネスにおよぼす影響についての議論も欠かせません。

そして、2020-21年のパンデミックが世界をどのように変えるかは未だ見通すことが難しいのですが、近未来についての議論は有益と思われる。例えば、海外との往来に制約がある場合、派遣社員のハンドオンの指導が日本企業の海外工場の品質向上に寄与してきたとすれば、今後はどのような対応が必要かについても見極めが必要かもしれません。

GVCに関する研究を進めてこられた会員および内外の研究者にご登壇戴き、各自の研究テーマ・領域を踏まえ、GVCの将来について大いに議論し、大胆に占ってもらおうというのが、今回の企画です。登壇者の研究発表および特別講演を踏まえ、会員のみなさまにおかれましては、パネルディカッションでの議論に参加戴き、議論を深めることができればと考えております。

このほかにも、国際交流フォーラムその他の企画および多くの会員のみなさまに日頃のご研究の成果を発表戴く自由論題のセッションを計画しています。詳しいプログラムについては、別途ご報告致します。ご多忙のことと存じますが、会員の皆様の奮ってのご参加をお待ちしております。

敬具

2021年5月吉日

第28回全国大会主催校 専修大学
実行委員長 山内昌斗
実行委員 今井雅和 目黒良門 根本宮美子